⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の373億円の支払超過から、826億円の受取超過となった。収入は、前年同期（０億円）に比べ、2,431億円増加して2,431億円となった。一方、支出は、前年同期（373億円）に比べ、1,232億円増加して1,605億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入4,721億円、支出１兆9,007億円、差引き１兆4,286億円の支払超過であって、前年同期（１兆7,991億円の支払超過）に比べ、3,705億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入９兆5,482億円、支出10兆5,135億円、差引き9,653億円の支払超過であって、前年同期（１兆473億円の支払超過）に比べ、820億円支払超過額が減少した。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第４・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	303,037	182,037	121,000	263,247	208,527	54,720
国債(１年超)	302,121	181,370	120,751	262,444	207,947	54,498
借入金	916	667	249	803	581	222
国庫短期証券等	1,022,396	938,435	83,961	868,334	716,498	151,836
国庫短期証券	928,071	844,110	83,961	772,334	620,498	151,836
一時借入金	94,325	94,325	0	96,000	96,000	△ 0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、12兆1,000億円の受取超過であって、前年同期（５兆4,720億円の受取超過）に比べ、６兆6,280億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行30兆2,121億円、償還18兆1,370億円、差引き12兆751億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入916億円、償還667億円、差引き249億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、８兆3,961億円の受取超過であって、前年同期（15兆1,836億円の受取超過）に比べ、６兆7,875億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行92兆8,071億円、償還84兆4,110億円、差引き８兆3,961億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入９兆4,325億円、償還９兆4,325億円、差引き０億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 84,587	△ 27,873	△ 112,460
特別会計等	△ 16,257	48,128	31,870
財政投融資	38,631	△ 56,661	△ 18,030
社会資本整備事業	△ 14,286	10,759	△ 3,527
外国為替資金	826	△ 7,622	△ 6,796
保険	△ 9,653	30,432	20,779
その他	△ 31,775	71,220	39,445
小計	△ 100,844	20,255	△ 80,590
国債等	121,000	△ 18,449	102,551
国債（１年超）	120,751	△ 19,138	101,613
借入金	249	689	938
国庫短期証券等	83,961	△ 1,805	82,156
国庫短期証券	83,961	△ 4,313	79,648
一時借入金	0	2,508	2,508
合計	104,117	—	104,117
調整項目	586	—	586
総計	104,703	—	104,703

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第４・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 23,989	△ 15,782
特別会計の債券売・買（△）	△ 31,740	△ 70,173
財政投融資	29,570	△ 36,830
国債整理基金	△ 61,310	△ 33,343
その他	△ 44,043	△ 59,586
計	△ 99,772	△ 145,541

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、９兆9,772億円の支払超過であって、前年同期（14兆5,541億円の支払超過）に比べ、４兆5,769億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達３兆7,073億円、資金返済６兆1,062億円、差引き２兆3,989億円の支払超過であって、前年同期（１兆5,782億円の支払超過）に比べ、8,208億円支払超過額が増加した。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、３兆1,740億円の支払超過であって、前年同期（７兆173億円の支払超過）に比べ、３兆8,433億円支払超過額が減少した。財政投融資は、前年同期の３兆6,830億円の支払超過から、２兆9,570億円の受取超過となった。国債整理基金は、６兆1,310億円の支払超過であって、前年同期（３兆3,343億円の支払超過）に比べ、２兆7,968億円支払超過額が増加した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、４兆4,043億円の支払超過であって、前年同期（５兆9,586億円の支払超過）に比べ、１兆5,544億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（10兆4,703億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（586億円の受取超過）を除いた収支は、10兆4,117億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、９兆9,772億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（２兆5,868億円）に比べ、4,344億円増加して３兆213億円となった。